

子どもアイデアコンテスト応募に必要な力と育つ力

③学びを人生や社会に活かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

町を大切に思う心

社会「町の様子を調べよう」

国語「つたえよう楽しい学校生活」

チームで協働する力

アイデア

話し合う

あきらめない心

図工「作品づくり」
2D→3D

体育「体で絵日記」

身振り

審査

立体に表す

探求心

表現力

音楽「音のスケッチ」

音

動く仕組みを作る

理科「風の力」「ゴムの力」
国語「本を使って調べよう」

図工「絵に表す」

絵に表す

伝える

分かりやすく伝える力

国語「修飾語」

国語「つたえよう楽しい学校生活」

表現力（言語）

① 生きて働く
知識・技能の習得

② 未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力の育成

他教科と関連した図工の単元づくり（子どもアイデアコンテストを取り入れて）

「あったらいいな・・・ ー町の未来を想像しようー」

子どもアイデアコンテストの目的は、子どもたちの「夢」を育み、挑戦することの素晴らしさを感じてもらうことです。教科等との学びと関連付け、さらに、絵や立体での表現、鑑賞の活動をひとまとめの活動として、構成していきます。

アイデアを想像し、絵や立体に表現していくその過程で考えを伝え合うことは、次の指導要領でも重視されていく力です。

1 7月：絵に表す（4時間）

教科：図工

教科等との関連：社会「町の様子を調べよう」

理科「風の力」「ゴムの力」


総合「にんじんソムリエになろう！」

国語「本を使って調べよう」

0、5時間

1時間

ねらい 1学期の学習を振り返る活動を通して、あったらいいなと思うことを進んで表現しようとする。

| | 授業の様子 | 授業のポイント・他教科等との関連 | 準備物 |
|-------------|---|--|----------------------|
| はじめ 1時間 |  <p>1学期を振り返る</p>  <p>アイデアをスケッチ</p> | <p>○1学期の活動（理科、社会、総合）を振り返り、どんな発見やステキがあったか想起する。</p> <p>社会・理科・総合 0、5時間</p> <p>○風やゴムの力を使って「こんなことができれば」、町に「こんな場所があったらいいな」と思うものを考え絵や言葉で表現する。</p> <p>○ウェビングなど、さまざまな方法でイメージを広げる。</p> <p>○「できること」や「その場所にあるといいもの」を具体的にイメージする。</p> <p>くすのきの中に遊園地があるといいな。</p> | 理科や社会の活動の様子のスライド |
| なか 2.5時間 |  <p>アイデアを交流</p> | <p>○自由に交流し、友だちと「夢」を伝え合う。</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の授業の中に、常に自由に考えを伝え合う時間を設定する。 ・ 自由に立ち歩き、様々な友達と交流することに慣れておく。 <p>○自分のテーマと似ている友だちとチームになり、アイデアを組み合わせしていく。</p> <p>○イメージを自由に話し合い、絵と言葉で表現する。</p> | 自由に表現できるように、上質紙をたくさん |

画用紙



チーム編成



本で調べる。



絵と言葉で表現



みんなに発表する

【ポイント】

・チームで話し合うことで、イメージがより広がり豊かなものとなっていく。

○はっきりわからないこと、物の仕組みなどを、本で調べる。

【留意点】

・自由に活用できるように、図鑑などを教室においておく。

・図書室を活用し、調べる、知識を広げる時間を設定する。

国語「本を使って調べよう」1時間

○グループで話し合うことで詳しくなったことや、新しいアイデアを取り入れながら、絵と言葉で表現する。

【ポイント】

・理科や社会の学び、総合で感じた思いを、言葉で表現することで、他者に思いが伝わるようにする。

すべり台は、理科で学習した風の力で上に向かって滑ります。

○自分たちのアイデアを友だちに発表し、アドバイスをもらうことで、アイデアをさらに広げていく。

フードコートで昔の食べ物が食べられるといいと思うよ。

様々なジャンルの図鑑
国語辞典

実物投影機

おわり
0.5時間



○グループで協力して、作品を完成させる。

【留意点】

必要事項を応募用紙に書き込み、作品を完成させる。

応募用紙

2 9月 立体に表す (4時間)

教科：図工

ねらい

友だちと協力して、想像した世界を様々な材料を使ってつくる。

授業の様子

授業のポイント

準備物

考える
1時間



机の上と壁に設計図を貼ることで、絵を立体にするためのイメージを持つ。

○絵に表現したものを、立体作品にするために、設計図を考える。

【留意点】

・平面の作品を立体にするために、一辺 50 cmの正方形の紙に上から見た図を、壁に張った同じ大きさの紙に高さを意識した設計イメージを描きこんでいく。

○友達と話し合いながら、どの場所にどのくらいのものを作るかイメージする。

(場所)

○大きさを具体的にイメージする。

(もの)

50 cm × 50 cm
の紙

つくる
3時間



計画を立てる。



作る



○作るものと順番、材料、担当などの計画を立てる。

○動く部分をどこにするか、仕組みはどうするかを考える。

【留意点】

動く仕組みは、理科との関連から、風、ゴム、磁石の力を使うようアドバイスする。段ボール、工作用紙など様々な種類の材料をおいておく。

○材料、形、大きさなどを話し合いながら、作っていく。

【ポイント】

絵に表現した時には、可能だったことも、実際に作ることが難しいことも考えられる。

すべり台の途中で落ちてしまうよ。形を変えよう。

○形・素材など、絵で表現していた時とは変更することも。

箱、紙粘土、木の枝や石などの自然物、段ボール、紙など、様々な素材
計画表

図鑑・工作の本・事典など



様々な素材、形を試してみる。



動く仕組みを考える。

○動く仕組みの作り方、より良い方法を考える。

速く滑る仕組みを考えよう。

教科と関連することの利点

国語 「読むこと」

自分たちのアイディアに現実性をもたせ、他者を納得させるためには、知識を広げ、物事の仕組みを知ることが必要になります。子どもは、作品をよりよいものにしたいという思いから、進んで調べ方を身につけ、知識を身につけていくようになります。

社会「町の様子をしらべよう」

3、4年生の社会科では、「地域社会に対する誇りと愛情を育てる」ことが次の指導要領でも求められています。自分の住む地域に「こんなものがあったら」と想像するのは、アイディアを豊かにすると共に、自分たちの住む地域を大切に思う気持ちもはぐくむと考えられます。

理科 「風のカ」「ゴムのカ」

生活科のおもちゃ作りから親しんできた風やゴムの力。その発展として、教科書では学習しない風やゴムの力を知らせます。すると、子どもたちは、自分たちの想像にその力を取り入れようとし、立体で表現する際にも、試行錯誤しながら様々な動く仕組みを作ろうとします。

グループで取り組むことについて

一人一人の想像から、3人グループでの活動になり、アイディアを組み合わせしていきます。対話しながら活動することにより、アイディアが広がり、よりよい作品となります。グループの編成は、子どもが自由に教室内で交流することで、自分のアイディアと似たアイディアをもった友だちを見つけ、チームを作ります。

3 9月～10月：伝える

国語 「つたえよう、楽しい学校生活」 10時間（話すこと・聞くこと）

「修飾語」1時間（伝統国語）




体育 「からだで絵日記」 5時間（表現運動）

音楽 「よびかけっこで〇〇の音楽をつくろう～音のスケッチ～」 4時間（音楽づくり）

自分たちの作った作品の良さを、友だちによりよく伝えるための方法を考えます。関連教科として、国語「話すこと・聞くこと」「伝統国語」、体育「表現運動」、音楽「音楽づくり」の活動で実施します。

体育「からだで絵日記」

ねらい 自分たちの作った作品の特徴や感じをとらえてひと流れの動きで即興的に表現したり、表したい感じを中心に「はじめとおわり」を付けた動きにしたりして表現することができる。

| | 授業の様子 | 授業のポイント | 準備物 |
|--------------|---|--|-------------------|
| はじめ 0.5時間 |  | <p>○自分たちの作品から、思いつく動きやことがらを話し合う。</p> <p>風の吹く木でふわふわ飛ぶ。</p> | 自分たちの作品 ワークシート |
| なか 1時間 |  <p>思いつく動きやことがらを、イラストと言葉で表現する。</p>  | <p>○動きのカテゴリー（〇〇へ出かけよう・〇〇に変身）を設定し、思いつく動きをイラストとともにカードにかく。</p> <p>【留意点】 動きのヒントになる言葉を書き入れるよう声をかける。</p> <p>例 ふわり・ピタッ・・・などの擬音語や擬態語、場の様子の補助説明</p> <p>○カードに書かれている内容を即興で踊る。</p> <p>【留意点】 全身を使って動きを作るよう、互いに見せ合うことで、良い表現を見つけることができるようにする。</p> | |

おわり
3時間



作品作りをする。



絵日記発表会をする。

感想を伝え合う。

振り返り
0、5時間

活動を振り返る。



○急変する場面などを入れた「はじめとおわり」のあるお話に合わせて、楽しく踊る。

【留意点】

表したい場面を中心に作品作りをするようにする。

- ・変化のあるお話になるように「はじめ-中-終わり」を考えて作ってごらん。
- ・急な変化（何かが破裂したり、しぼんだり）をお話に入れると楽しいよ。

体の動きや高低、速さや場の使い方の変化などを指導する。

- ・天まで届くように動かしてみよう。
- ・友だちとまねっこ（反対）の動きで踊ってみよう。
- ・斜めに大きく（すぐに縮んで）踊ってみよう。

○できた作品を発表する。

【留意点】

友だちの工夫した動きや強調したい場面が表現できているかを見つけられるような発問をする。

- ・動きを工夫して踊れているのは、…
- ・お話が思い浮かぶように踊れているのは…
- ・お話に合わせて工夫して動けているのは…

○友達の動きの良かったところを伝え合う



○活動を通して、できるようになったこと、友達との関わり、自分や友達の頑張りを振り返る。


- ・自分の思った感じやイメージを表すことができたか。
- ・友だちと関わり合って活動できたか。
- ・よい動きや課題を見つけて取り組むことができたか。

効果音（CD）
作品の中の小物

ワークシート

音楽「よびかけっこで〇〇の音楽をつくろう～音のスケッチ～」 4時間

| | | | |
|------------|---|---|-------------------------|
| ねらい | 自分たちの考えた「あったらいいな」と思う場所の情景やものの特徴をイメージしながら、問いと答えを生かして音楽を造ることができる。 | | |
| | 授業の様子 | 授業のポイント | 準備物 |
| はじめ 1時間 |  <p>「問いと答え」を生かして音楽をつくる。</p> | <p>○リコーダーや打楽器を使って、友だちと「問いと答え」を生かしながら、音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー同士でお話するように作っていきましょう。 ・お友達のメロディを真似したり、少し変えたりしてみましょう。 ・打楽器で音を長く響かせたり、細かく売ったりしてよびかけっこをしよう。 <p>【留意点】 ソ・ラ・シ・レ・ファの五音の音階で作る。和音進行がないので、どの音を使っても間違いになることが少ない。 リコーダーか打楽器のどちらが自分たちの作品に合うか考える。 自由に提示されて選択することが苦手な子どもには、具体例を提示するなどの支援をする。</p> | 自分たちの作品 リコーダー 打楽器 |
| なか 2時間 |  <p>他の楽器（木琴や鉄筋など）を組み合わせて、チームで音楽をつくる。</p> | <p>○ドローンやオスティナートを入れてチームで音楽をつくる。 ○曲の流れや重なりを考えてチームで音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の始め方を決めて、お互いの音を聴きながら音楽をつくっていきましょう。 ・1オクターブ高いところや低いところで演奏したり、ずらして入ったり、途中で休みを入れたりしてみましょう。 <p>【ポイント】 ・担当の楽器や役割を決めたら実際に何度も音を出しながら、音楽をつくっていくようにする。 ・誰のどの音の後に入るかなどの合図を決めたり、誰の音を聴いて速さを合わせ</p> | |

| | | | |
|--|----------------------|--|--|
| | | <p>て行くかなどのおおまかなルールを決めさせたりして、子どもたちの自由な発想を生かしながらかつっていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 意図的にいくつかのグループの演奏を取り上げ、気付いてほしい工夫を全体化する。 | |
|  <p>おわり 1時間</p> | <p>まとまりのある音楽にする。</p> | <p>○強弱や速さ、重ね方などの工夫をして、まとまりのある音楽をつくる。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <ul style="list-style-type: none"> • 速さや強さ、音の重なりを工夫しよう。 • 初め方や終わり方も考えてみよう。 </div> | |




教科と関連することの利点

体育 「からだで絵日記」 表現運動

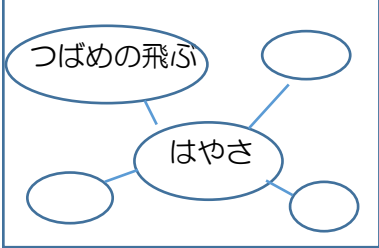

現行の指導要領では、3，4年生は「身近な生活（具体的な生活、想像の世界）からの題材から、表したい題材を見つけ、多様な表現に取り組めるようにすることが求められています。自分たちがアイデアを出し、創り出した場所や物は、子どもたちにとって身近で親しみのあるものです。立体作品を作り上げているので、動きを考えること、そしてそれを表現する言葉を見つけること、ストーリーを組み立てることは、楽しさだけでなく、豊かな表現となり、自分なりの思いをもっているのを感じを込めて踊ることができます。

音楽 「よびかけっこで〇〇の音楽をつくろう！」 音楽作り


即興的な表現の例として、「絵などを楽譜に見立てて声や楽器などの音で表す活動」があげられています。協力して作品を作った友達と作品を見ながら音で会話をすることで、豊かな表現が生まれると考えられます。

| | | | |
|-------------|--|--|--|
| ねらい | 互いの考えの共通点や相違点を整理しながら、話し合うことができる。 | | |
| | 授業の様子 | 授業のポイント | 準備物 |
| 考える 1時間 |  | <p>○自分たちの作品について伝えたいことを話し合う。(楽しさ・良さ・特徴など)</p> <p>個でウェビング→全体で話し合う。</p> | <p>自分たちの作品 ワークシート</p> <p>ホワイトボード</p> |
| 話し合う 2時間 |  <p>相手と目的を確かめ、話題を決め、説明の仕方を話し合う。</p> | <p>○どのように説明すると、作品の良さが伝わるか話し合う。</p> <p>【留意点】</p> <p>説明したい理由を明らかにして伝えたい事柄を話し合う。</p> <p>発表時間(2分)を意識して内容を決めるようにする。</p> <p>前の発言との関連を示して発言するようにする。</p> | |
| 練習 2時間 |  <p>発表メモを作る。</p> | <p>○発表内容と分担を、ワークシートを振り返るなどして確認し、話の組み立てを考え、発表メモを作る。</p> <p>【留意点】</p> <p>話す順序に沿って、要点を短い言葉で書くようにさせる。</p> | |

国語「修飾語」1時間

| | | | |
|-----|---|---|---|
| ねらい | 修飾語を使って文を詳しくすることで、修飾語の働きについての理解を深めることができる。 | | |
| | 授業の様子 | 授業のポイント | 準備物 |
| はじめ |  <p>詳しくしたい言葉を選ぶ。</p> | <p>〇イメージを伝えたい言葉を選び、修飾語を考える。</p> | <p>自分たちの作品 発表原稿 ワークシート 言葉辞典</p> |
| なか |  <p>チームで交流しながら、ぴったりの修飾語を考える。</p> | <p>速く滑ることを伝えたいな。</p> <p>つばめの飛ぶ速さは、どうかな？</p> <p>【留意点】 どんな〇〇なのか、教師が尋ねることで具体的にイメージをもたせる</p> | |
| 終わり | <p>学習を振り返る。</p> | <p>チームで交流して、友だちの言葉の使い方のよいところを学ぶ。</p> <p>【留意点】 様々な文を作って練習することで、修飾語の役割を理解させる。</p> <p>〇気づいたことをまとめ、普段の生活に生かせるようにする。</p> | |

国語「つたえよう、楽しい学校生活」2 5時間

| | | | |
|------------|---|---|------------|
| ねらい | 伝えたい目的と内容を明らかにして、言葉遣いや姿勢などに注意しながら話すことができる。 | | |
| | 授業の様子 | 授業のポイント | 準備物 |
| はじめ 1時間 |  <p>メモをもとに1人で練習する。</p> | <p>○修飾語を加えたメモを見ながら、ひとりで練習する。</p> <p>【留意点】 よりよい発表になるよう、強弱・抑揚、姿勢、間の取り方などを意識するよう確認する。</p> | 発表原稿 |
| なか 2時間 |  <p>グループで、練習する。</p> | <p>○グループで発表の練習をし、内容と発表のしかたについて助言しあう。</p> <p>○2つのグループでペアになって発表し合い、アドバイスをし合う。</p> <p>【留意点】 よかった点も見つけるようにする。改善点については、どこをどのようにすればよいか伝えるようにする。</p> | ワークシート |
| 終わり 2時間 | <p>発表会を行う。</p> <p>グループごとに振り返りを行う。</p> | <p>○自分たちの作品をクラスの友達に紹介する。</p> <p>【留意点】 前回までに学習した発表ポイントを振り返り、場に合った話し方を意識させる。</p> <p>○練習してきたときの観点に沿って自分の話し方を振り返る。</p> | 作品 録画機器 |

教科と関連することの利点

国語「話すこと・聞くこと」





次の指導要領で、「子供自身が目的や必要性を意識して取り組める学習活動」を展開することが求められています。子どもたちが必要性を感じる学習活動になるよう、題材を設定することが大切になります。図画工作の時間に自分たちが作った作品を友だちに紹介する活動では、自分たちの作品を友だちに知ってほしいという思いが、話し合いに目的と必要性をもたせることになります。


自分の伝えたいことと、友だちが伝えたいことの中から何をどう伝えるか、2分間という時間制限を設定することで、活動がより、主体的・対話的になると考えられます。

国語「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

3年生の国語では、修飾語について学習します。この学習も同じように、「自分たちの発表をよくしたい」という思いが、学習に「目的や必要性」をもたせることになると考えられます。教科書や、教師の準備した例文で学習するよりも、主体的な学びとなると考えられます。

教科等との関連 国語 「たから島のぼうけん」 8時間（書く）

| | | | |
|--------------------|---|---|---|
| <p>ねらい</p> | <p>（図工）自分や友だちの作品を見て、「もしも、〇〇に行ったら。」「〇〇があったら。」と想像したことを伝え合い、よさや楽しさを味わう。</p> <p>（国語）「初め」「中」「終わり」の組み立てを使い、構成を考え、想像したことをもとに物語を書くことができる。</p> | | |
| | <p>授業の様子</p> | <p>授業のポイント</p> | <p>準備物</p> |
| <p>はじめ 1時間</p> |  <p>作品を見て感じたことを話したり書いたりする。</p> | <p>○作品を見て、ステキを見つけるとともに、「もしも本当にあったら」自分ならどうするか想像し、話したり書いたりする。</p> <p>【留意点】 「本当にあったら」と想像することで、作品の世界をより深く想像するようにする。</p> | <p>作品 ワークシート （作品の写真を真ん中に印刷しておく）</p> |
| <p>なか 6時間</p> |  <p>作品を見て、登場人物やあらすじを想像する。</p>  <p>組み立てメモを作る。</p>  <p>メモをもとに物語を書く。</p> | <p>○同じ作品を選んだ子供でグループ（4人程度）になり、発表しあって想像を広げる。</p> <p>【留意点】 友だちの発表を聞いて、もっとこうしたら、こんなことが起こりそうと思ったことを助言することで、想像を広げる。</p> <p>「初め」「中」「終わり」の組み立てに沿って、出来事を整理して書く。</p> <p>【留意点】 前時に想像したことを、改めて組み立てに沿って再構成するようにする。</p> <p>場面の様子や会話文などを入れ、物語を仕上げる。</p> <p>【留意点】 教科書の例文を参考にする。 メモに、アイデアを書き込み、発想を広げる。 ○物語の題名を考える。 ○友達と交換して読み合い、内容がよくわかるか助言しあう。 ○読み返して清書する。清書する。</p> | <p>作品 ワークシート （構成表） 原稿用紙</p> |

| | | | |
|--------------------|--|---|--|
| |  <p>読み返して、清書する。</p> | <p>【留意点】 内容的な観点とともに、文法的な視点からも、読み返すようにする。</p> | |
| <p>終わり 1時間</p> | <p>出来上がった作品を読み合う。</p> | <p>○出来上がった作品を読み合い、感想を伝え合う。 【留意点】 「内容」「組み立て」「表現」を観点として、感想を伝え合う。 作品を作った友達に読んでもらう。</p> | |

国語 「たから島のぼうけん」 「書くこと」

3, 4年生の「書くこと」の言語活動例に「想像したことなどをもとに、物語を書いたりする」ことがあげられています。自分たちが想像した「町にあったらいいな」と思うものをきっかけとして想像を広げていくことは、子どもにとって楽しい時間となるのではないのでしょうか。構成を考えて物語を書くことで、図工の鑑賞活動にも深まりがみられると考えられます。

図画工作科の学習として -絵や立体、工作に表す、鑑賞を一つの題材で行うこと-

多くの場合、それぞれの学習は、別の題材で行われます。本単元では、「絵」に表した際、そこに、絵だけでは表しきれない子どもの思いが、言語表現としてあります。そこで、実際に立体作品を作ることで、言語で表現した物を作品の中に取り入れることができます。「～ができる」は、実際に動くことで表現され、より楽しい作品となります。製作過程で、それぞれの考えを交流しながらよりよい表現となっていくのです。

動きでは表現できない「できること」については、鑑賞することで想像を広げることができます。友だちの作品を見て、実際にその場所に行った気持ちになって文章を書いたり、自分だったらどんなことをするか思い描いたりすることは、子どもにとって、楽しい時間となるのではないのでしょうか。